

授業概要

保育所等における子どものヘルスプロモーションにむけて、保育士として必要な保育環境の構築や保育上の援助・配慮についての知識・技能を学ぶ。具体的には保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、子どもの体調不良等に対する適切な対応、保育における感染症対策等について、各ガイドライン・統計や実際に保育所等において起こった事例に基づいて具体的な理解を深める。また子どもの健康や安全について、保育所での組織的取り組み、保健活動の計画価、評価改善プロセス等について実践的な力を養う。

授業計画

第1回	小児保健領域における各指標の動向
第2回	多様化する保育の現状と少子高齢化社会における母子の健康増進
第3回	保育所・幼稚園における環境構成(感染防御)
第4回	保育所・幼稚園における環境構成(事故防止)
第5回	子どもに見られる病気とその症状・Ⅰ(感染症等)
第6回	子どもに見られる病気とその症状・Ⅱ(慢性疾患等)
第7回	子どもの看護・Ⅰ(発熱・咳嗽・発疹)
第8回	子どもの看護・Ⅱ(頭痛・下痢・嘔吐)
第9回	子どもの看護・Ⅲ(創傷・熱傷・誤飲)
第10回	保健学的視点での子育て支援・Ⅰ(先天異常、神経発達症等)
第11回	保健学的視点での子育て支援・Ⅱ(慢性疾患、病児保育等)
第12回	保健学的視点での子育て支援・Ⅲ(食物アレルギー対応等)
第13回	保育所における保健活動の計画と各機関・専門職との連携
第14回	地域におけるヘルスプロモーションⅠ：地域子ども・子育て支援事業
第15回	地域におけるヘルスプロモーションⅡ：母子保健行政の動向
第16回	定期試験

到達目標

- ・子どもの成長・発達や事故・病気についての知識を深め保育・看護の実践に繋げる方法を知ることができる。
- ・多様化する保育や子育て支援の現状等を学んで行く中で、園や地域における健康増進にどう向き合い、何がきめるのかを考察しながら保育者としての評価改善プロセスを含めた本来業務を再認識できる。

履修上の注意

授業内の小レポートや、授業外で行う課題を課すことがある。
 ディスカッション等には積極的に参画すること。
 著しい私語等で授業環境を乱す者については、退出を命じる。
 指示された場合を除き、授業内でのスマートフォン等の使用は認めない。

予習復習

予習として配布資料の予告された箇所を授業前までに通読すること。
 当該テーマのより良い理解のために、授業内で紹介する参考文献や資料による復習をすること。

評価方法

授業内でのディスカッションや小レポート(20%)、定期試験(80%)によって評価する。

テキスト

松本峰雄・他『子どもの保健と安全 演習ブック(よくわかる!保育士エクササイズ 7)』、ミネルヴァ書房 (ISBN-13: 978-4623089109)
 厚生労働省各ガイドライン(授業内配布)